

第1回 伊賀市産業振興条例策定委員会 議事概要

開催日時： 平成4年2月1日（火） 14:00～

開催場所： 伊賀市役所4階庁議室

1. あいさつ

副市長

2. 自己紹介

委員、事務局の自己紹介

3. 委員長、副委員長の選任

委員長： 三重大学人文学部 洪 性旭 准教授

副委員長： 上野商工会議所 田山 雅敏 会頭

4. 伊賀市産業振興条例策定について

（資料1、資料2を説明）

【意見】

- ・理念条例にするのはいいが、ある程度具体的にしないと形骸化しないか。
⇒資料にある通り、具体的な部分を要綱等に落としていく。要綱の根拠としてもこの条例の立ち位置がある。

5. 協議事項

（1）携わる各分野の課題と発展の方向、必要な施策について

委員：コロナ禍で良いものを作っても提供できる場がない。

委員：後継者不足に悩んでいる事業所は多い。創業支援を進めているがそれで維持するのもなかなか難しい。また交通弱者が気軽に買い物に行ける地元商店等の廃業も課題である。

委員：伊賀の観光コンテンツ忍者、芭蕉を始め、いろいろある。これらをも有効活用し、儲かる観光産業を樹立しないといけない。

また、伝統産業などは後継者不足に悩んでいる。全国から興味のある人を集めて指導し、伝統産業の名だけでも残るよう配慮している。

委員：当初、大阪から来たので、星の美しさに感動した。また、ほたるもこちらに来て初めて見た。伊賀は野菜や肉、米など美味しく、とても気に入っている。NINJA フェスタも子供が小さいころ毎年連れて行っていた。ただその時昼食がとれる店舗が少ないように感じた。

商工業においては、後継者不足もそうだが、少子高齢化による労働力不足も深刻である。デジタル社会の進展で人は人にしかできない部分を行い、AI やロボット部分に任せることも多くなる。その面で、IT などに長けた人間が必要となる。設備面だけでなく、使う人材の育成が急務である。

委員：伊賀独自というより全国的な話になるが、脱炭素やカーボンニュートラルについて企業 5000 社ほどアンケートを取り約半数から回答を得た。うち 20%が何もしていないで、40%が何をすればよいかわからないとの回答であった。内容について周知するとともに、成長が期待される分野と位置付けた、自動車産業（EV や軽量化）やエネルギー産業（海上風力など再生可能エネルギー）を支援することで脱炭素化を推進していきたい。

委員：伊賀は歴史、文化、伝統などが長く、忍者以外にもコンテンツも多いことから、他所にないものを前面に出して観光誘客等努めてもらいたい。

委員：行政が条例などにより縛りをかけることも発展を妨げる一因ではないか。景観条例で高い建物が建てられないことから観光ホテルは建てられない、名阪から何キロ以内でないと工業用地として認められないから工業団地は作れない。全部に一律にするのではなくある特定の区域にアドバンテージを与えるなどあっても良いのではないか。高度化人材の定着も必要である。かつて高度化人材が来ていたが今はいない。高度化人材の定着が必要で、そのための施策を講じる必要もある。

（２）伊賀市産業振興条例の策定項目について

前文、目的、定義、基本理念及び方針、行政の責務、
事業者の役割（商業者、工業者、農林業者、観光産業事業者）、
大企業の協力、経済団体の役割、市民の役割、教育機関の役割
以上の項目を記載する

6. その他

次回開催 令和４年２月２４日 １２：３０～
於：伊賀市４階庁議室